

第6学年東組 図画工作科学習指導案

「今日から筆あととARTアーティスト」

学習指導者 毛利 二実子

1 学級(34名)の実態

(1) 方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔諦めずに試行錯誤する力〕

質問紙調査によると、一つのことに諦めずに取り組んでいると答えた子供は29名、失敗しても途中で投げ出さずに何度も取り組んでいると答えた子供は28名いる。教師の見取りでも、図画工作科の学習において、集中して自分の作品を仕上げようとする姿は見られる。しかし、よりよい作品になるように、様々な方法を試したり、最後までこだわりをもって完成させようとしたりすることができる子供は少ない。

(2) 教科に関する学級の実態

図画工作科の学習では、美術作品を鑑賞する際に技法に興味をもって、作品例を真似て作品づくりに取り組むなど、高い意欲をもって取り組んでいる子供が多い。質問紙調査によると、絵を描いたり、工作をしたりすることが好きと答えた子供が多くいる一方で、他人と比較することで、自信がもてず、苦手意識をもっている子供もいる。また、鑑賞の意義は全員が感じられているが、形や色の面白さを捉えることができる子供に比べ、筆づかいやそこに隠された作者の意図などを推測しようとしている子供は少ない。

習得を目指す「諦めずに試行錯誤する方法」

鑑賞したものから見付けた自分の理想に合う表し方を試していく

2 本題材で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

題材の初め、「空」を自由に絵に表した後、友達と見せ合い、同じ空でも多様な表現ができることを知った子供たちは、有名な画家はどんな表現をしているか関心を高め、鑑賞教材である「星月夜」などの筆あとが特徴的な作品を鑑賞する。子供たちは「色が鮮やかで強い感じの空だな」「僕は空に動きがある感じがするな。細かい線で描いているように見えるよ」などと、形や色の工夫などに着目し、「どうやって描くとこんな感じになるのかな。どうしてこんな表し方をしたのかな」などの問いを見いだすだろう。そして、「私は風が強く吹いている夜を描いたんだと思うよ。だから暗い色を使ってうずまきのような形で細かい線で表現したんじゃないかな」「なるほど。僕は星や月が動いている感じがしたよ」「こっちの夕暮れの空はふんわりした感じがするよ。たくさん色を重ねているところは同じだけど、筆あとの感じが違うね。こんな空の表し方をしたいな」などと形や色だけでなく筆あとにも着目して友達と感じ取ったことを話し合いながら、自分の見方や感じ方を深め、表し方の特徴などをワークシートに蓄積していく。そうすることで自分の理想の空の表し方を見付け、自分の空を表すことに挑戦していこうという課題を設定するだろう。そして、自分の表したい表し方を選んで試し、蓄積したものと比較して、「自分の空」を追求していく。例えば「初め描いた空より、ゴッホのようにダイナミックな空になってきたかな」「絵の具の筆あとを残すように描いているから力強い感じが出ているよ。私のはどうかな」「いいね。初めよりたくさん色を重ねていても、ぼかしているから優しい感じになっているよ」などと、蓄積した自分が試したものを比較したり、見直したりすることで表し方の違いによる作品の変容を捉え、自分の理想に近づいたことを感じていくのである。このように、作品を形や色などから分析的に見たり、意図を感じ取ったりすることで作品を深く捉えることのよさに気付いた子供たちは、積極的に生活の中の造形のよさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めていき、さらに、自分の表現に生かそうとすることで、鑑賞の価値を感じていくだろう。

3 題材計画と題材構成の工夫（本時 4/4）

次	学習の流れ	題材構成の工夫
二	① 描きたい空を描こう まず、イメージマップをつくり、自由に「空」のイメージを膨らませる。次に、それぞれがイメージした空を絵で表す。友達と見せ合い、多様な表現があることを知り、表現したいものを表現する難しさを感じる中で、有名な画家の描く空にはどんな作品があるのか関心を高め、ゴッホの「星月夜」の空の表し方に着目して鑑賞する。同じ空でも多様な表し方があることを知り、形や色以外にも筆あとに着目することで表現の意図や特徴、違いなどを感じ取れることを知り、鑑賞の視点を整理する。さらに他の表し方にも興味をもち、「自分なりの空を表現する」という目標を明確にする。	【達成意欲を高める目標共有の工夫】① 題材の見通し場面で、イメージマップをつくることで空のイメージを膨らませることができるようにし、その後自由に自分なりの空を描く時間を設ける。そしてゴッホの作品を全員で鑑賞することで、筆あとの特徴により、同じ空でも多様な表現があることを感じたり、鑑賞の意義や視点を捉えることができるようにする。捉えた表現の特徴を基に、美術作品と自分の作品とを比較することで、「自分も理想の空を表現することに挑戦したい」という思いを高めていくことができるようにし、鑑賞して捉えた表し方の面白さなどを基に自分なりの空を表現するという目標を共有する。さらにその他の美術作品についても感じ取ったことなどをグループで話し合う場を設定することで、自分が気付いていなかった表現の意図や特徴に気付くことができるようにする。
	② 有名な画家たちはどんな描き方をしているのだろう 提示された複数の美術作品（モネ「ジヴェルニーの積みわら、夕日」、大下藤次郎「水辺風景」、スーラ「グランド・ジャット島の日曜日の午後」）を、①時で見いだした筆あとをはじめとする視点を基にグループで鑑賞し、感じ取ったことを付箋に書き「分析シート」に整理していく。筆あとに着目することで、表現の意図や特徴、違いなども考えていく。その後、①時の自分の作品と比較し、もっと多様な表し方をしてみたいという思いを高める。グループでの話し合いを参考に、自分が理想とする表し方の作品を選び、自分の「分析シート」に感じたことや選んだ理由、自分はどんな空を表したいかななどをまとめる。まとめた分析シートは「筆あとARTノート」の中に残していき、実際に表してみたいという思いを高める。	【子供が自ら選択して、学びを進める場】②～④ ②時で話し合った「分析シート」を基に、自分が参考にしたい作品を選び、そこから感じたことや選んだ理由を自分の分析シートにまとめ、筆あとARTノートに残す。③④時では、自分が表したい空を表すために、それに合う筆あとや描画材料を選択し、試す場を設定する。「筆あとARTノート」を見返し、その作品の工夫した表し方や自分が表したい思いなどを確かめながら試していくことができるようにする。
	③④ 鑑賞したことを生かして、自分の表したい空を表そう 「筆あとARTノート」を見返し、筆あとを中心に自分が理想とする表し方の作品の特徴を振り返る。「自分の空」を表現するために適した筆あとや、形や色、使う描画材料（水彩絵の具、クレヨン・パス、色鉛筆、カラーペン）などといった表し方を選んで試し、複数枚作品をつくっていく。「筆あとARTノート」を見返して選んだ作品の特徴を確認したり、試したものを見比べたりすることで変容を捉える。また、試す中で自分のイメージが変化していくこともあり得ることを合わせて伝え、自分の理想とする空の表現を追求する。④時の最後には、①時に描いた空と試したものとを比べながら鑑賞したり、振り返りカードを見返したりすることで自分の見方や感じ方の深まりを捉える。	

4 方法の習得の段階に合わせた手立て 【筆あとARTノート】②～④

認知段階②	想起段階③④
①時で、鑑賞することが自分の表現をよりよくしていくことにつながることを感じさせる。②時には、「筆あとARTノート」に自分の表したい表し方の作品の筆あとや表し方など、気が付いたことをまとめ、可視化しておき、このノートを見返すことで、多様な表し方を試しやすくなることを教示する。	「自分の表したい空を表すにはどうすればよいかな」などと問いかけ、掲示しているグループでまとめた分析シートを集約したものなどを意識させたり、声掛けをすることによって個別に想起させたりする。 手元に常に置いておくことで、いつでも「筆あとARTノート」を確認できるようにしておく。

5 本時の学習

目標	美術作品を鑑賞して感じ取った空の表し方を基に、自分なりの表し方を選んで描き、表現の多様さや面白さを感じて、自分の表現を比較することで自身の変容を捉えることができる。
----	--

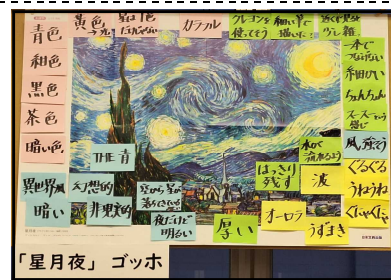
学習活動と手立て		主な子供の意識			
見通し	1 学習課題を設定する。	同じ空でもいろいろな筆あとがあったな。			
		「星月夜」のような絵の具を厚く塗った筆あとが特徴だった。あんな「力強く動きのある空」を表したい。	「ジヴェルニーの積みわら」のように細かく絵の具を重ねて、「優しい空」にしたい。もっとふんわりさせたい。	「水辺風景」のような水彩絵の具のにじみを生かした筆あとで「幻想的な空」にしたい。	「グランド・ジャット島…」のように点で細かく表して「不思議な空」にしたい。
行動	2 自分の表したい空に合う表し方を試す。 【筆あとARTノート】	鑑賞したことを生かして、自分の表したい空を表そう			
		前の時間よりも、絵の具が盛り上がるように描いてみよう。	前の時間よりも橙や赤の絵の具を少しずつ色を重ねていこう。	今日は絵の具をにじませよう。たくさん水で薄めよう。	色鉛筆を使って点々で描いていたよ。続きを描いていこう。
		前と比べて、厚く重ねた感じがゴッホの空のような強い感じが出たよ。	細かくたくさん色を重ねる筆あとにすると柔らかい感じになったよ。	上手くにじまない。あまり水が多いと色が薄くなり過ぎる。	点々で空を表していくと星空の感じがしてきたな。
		筆あとARTノートを見るとゴッホの筆あとにはクレヨンも使っているみたいだったな。	赤や橙の裏に青が隠れている感じがしたよ。もっとふわっと重ねてみたい。	前より色が薄くなってしまったな。他の表し方はないかな。友達のはどうかな。	「不思議な星空」に変更しよう。天の川のような星の集まりを表していこう。
		クレヨンで強く細かく線で描いてみるとどうかな。	クレヨンの他の色も混ぜてぼかすとどうかな。	先に紙に水を塗っておくとどうかな。	離れて見ると、不思議な雰囲気がするよ。
		なるほど。絵の具を厚く重ねた感じも出ているね。	クレヨンをぼかすのも柔らかい感じになっているよ。	この方法だと理想のぼかし方ができたよ。	絵の具で下に色を塗ってから点々を描こうかな。
	振り返り	3 学習活動を振り返り、自分の学びを捉える。	最初に描いた空と比べよう。		
		グラデーションだけより細かい線で筆あとを残すと強い感じが出せたよ。		不思議な空にしたいから、点々の筆あとを残すように試したよ。	
		自分の表したい空に近づいたよ。こんな空の表し方もあるんだな。		これまでにしたことがない筆あとで新しい表し方が見付かったよ。	
		いろいろな作品を鑑賞すると新しい表し方を発見できたよ。自分の表現に生かすことができたな。今後、いろいろな絵を描くときに使ってみよう。			

評価	筆あとARTノートの中にある鑑賞して感じ取った特徴を基に、自分の表したい表し方を試し、試した自分の空を比較することで、表現の多様さを感じたり、変容を捉えたりしている。 【方法：発言、様相、作品、記述】
----	--

6 本時の詳細

～見通し～ 学習活動1

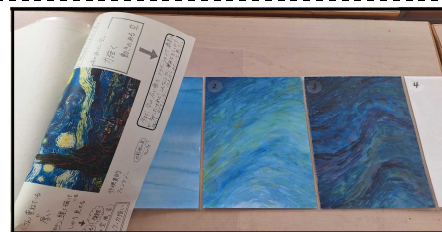
子供たちは、本時まで鑑賞の意義について話し合い、共有している。鑑賞することによって多様な表現があることを知り、自分の見方や感じ方を深め、自分の作品に生かそうとする思いを高めている。そして、本時、前時までの学習を振り返り、美術作品を鑑賞して気が付いた作品ごとの筆あとの特徴などを想起できるようにする。筆あととARTノートや掲示物（ピンク付箋…色、黄…形、青…受ける印象、黄緑…筆あと）を見返し、自分の表したい表し方や前時に試したものを再度確認し、それらを基に「どんな空を表したいか」ということを明らかにし、グループ内で「私が表したい空は力強い空だよ」などと表出できるようにする。本時、どんな空を表したいかという思いを高めることで、自分の表し方を見付けるという目標に向かい続けることができるようにする。また、前時までの作品で満足している様相の子供に対しては、友達の作品を鑑賞したり、アドバイスをもらったりすることで新しい気付きが見付かることを助言し、本時の活動に主体的に向かうことができるようにする。



【全員で鑑賞したことを集約した掲示】

～行 動～ 学習活動2【筆あととARTノート】

「自分の表したい空を表すためにはどうすればいいかな」などと問いかけ、掲示を参考にしたり、筆あととARTノートを手元で確認したり、その中の鑑賞をして表してみたいと感じた作品の特徴をまとめた分析シートを振り返り、どんな筆あとで表すとよいかを考えることができるようにしておく。前時につくった作品も一覽で見ることができるようにしておき、これまでの変容を捉えながら自分の表したい空を表すために試行錯誤できるようにする。



【筆あととARTノートの例】

自分の理想の表し方に合った描画材料（水彩絵の具、クレヨン・パス、色鉛筆、カラーペン）を選ぶ場を設定する。前時に気付いた描画材料による筆あとの違いを掲示物にまとめておき、選択しやすくしたり、自分の表し方に合う描画材料を試しやすくしたりする。何度も試すことができるように、一般的な画用紙よりも厚みがあり、毛羽立ちが少ないB6サイズの水彩画用紙を使用する。繰り返し絵の具を乗せたり、ぼかしたりする表現にも適している。材料は多めに準備しておき、自分が納得するまで試すことができるようにしておく。そして、鑑賞することの意義を全体で確認し、座席をグループの形にしておくことで、互いの表現を自然に鑑賞したり、自由に質問やアドバイスをし合ったりすることができるような場を設定しておくことで鑑賞しやすい環境にする。また、同じような表し方をしている子供同士での鑑賞を促す声かけを個別にする。これは、自分の表現につまずいた子供や、自分から積極的に友達に関わることに苦手意識をもっている子供にとって有効な支援であると考えられる。

～振り返り～ 学習活動3

これまでの自分の学びを捉えることができるように、振り返りカードへ記入する。その際、筆あととARTノートに蓄積してきたものを見返し、自分の表し方が変容してきたことを感じられるようにし、自分の学びを正確に捉えられるようにする。振り返りの観

5/14 !!今日の発見!! ●これまでと比べて思ったこと・感じたことなど・その理由 空＝グラデーションというイメージだったけど、強い感じを表すために、ゴッホのような筆あとを模倣するようになった。ゴッホのような細かい線で描いたり、黄緑以外の色（紫・青）も使っていたので、色が濃縮されて、動きのある力強さが出た。	5/15 !!今日の発見!! ●これまでと比べて思ったこと・感じたことなど・その理由 絵の具以外を使うともっと分厚い感じが出ると思ってた。クレヨンを重ねて描いた。絵の具だけより力強さが出た。理想の空ができた。自分の表し方の幅も広がった気がする。 ●今後生かしたいこと 今回は小さい画用紙だったのでもっと大きいサイズに描いてみたいと思った。空以外も家や木を残しながら描くとうるさくなるかやってみよう。
---	---

【振り返りカードの例】

点は、「これまでと比べて思ったこと・感じたことなど」「その理由」「今後生かしたいこと」についてである。振り返りの記述後に、自分の学び方のよさを感じている姿に対して、「筆あととARTノートを使って振り返ったり、前の作品と比べたりしながら粘り強く取り組むと、自分の理想の空に近づいたね」などと称賛することで価値付け、自分の学びを実感できるようにする。さらに、今後生かしたいことについて表出している姿に対して、「多様な表現の作品を鑑賞することはこれからの自分の表現を豊かにすることにつながることに気付いたんだね」などと称賛し、鑑賞の価値を自覚できるようにする。